

氏名	小浜 さつき
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第 7077 号
学位授与の日付	令和6年 3月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Exploring tacit knowledge based on an expert nurse's practice for stroke patients(脳卒中患者に対する熟練看護師の看護実践に基づく暗黙知の探求)
論文審査委員	教授 森本 美智子 教授 齋藤 信也 教授 中塚 幹也

学位論文内容の要旨

熟練看護師の看護実践をみるとき、説明のつかない「知」を感じることもある。この「知」は、Polanyi (1966) により「暗黙知 (Tacit knowledge)」と定義され、観察や言語化することが難しいと指摘される。本研究の目的は、脳卒中リハビリテーション看護を専門領域とする高度実践を行う熟練看護師の暗黙知を探求することにある。

暗黙知を探求するための研究手法として対象の経験に迫る解釈学的現象学アプローチを導入した。熟練看護師に対して、4回のインタビューを実施し、結果を解釈学的に分析した結果、6事例の看護実践経験に基づく語りから、5つの知が抽出された。抽出された知は、「脆弱性を有する人間の生き抜く力を信じる姿勢」、「共に在ること」、「人間の尊厳の尊重」、「対象の苦しみに呼応し、共に背負う覚悟」、「患者の経験の真の理解に迫る理論的知識基盤」であった。熟練看護師の暗黙知は、ケア対象者の時間性と尊厳の尊重に基づく対話の重視や、ケア対象者と共に存在の意味を構築する解釈者としての熟練看護師自身の姿勢が基本構造となることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本論文は、脳卒中リハビリテーション看護を専門領域とする熟練看護師の暗黙知を、解釈学的現象学アプローチを用いて検討しており、以下の成果を得ている。

- 1) 6事例に対する看護実践経験に基づく語りから、5つの知を抽出した。
- 2) 5つの知は、生き抜く力を信じる姿勢、尊厳の尊重、共に在ること、対象の苦しみに呼応し共に背負う覚悟などであった。

本研究の対象者は1名であり、対象者の個別的背景や研究者と対象者の関係性が分析過程や結果解釈にも影響している可能性も否めないという課題がある。しかしながら、まず熟練看護師の実践場面の観察・省察から暗黙知の探究を試み、解釈学的現象学アプローチの導入に至るという、方法論上の模索がなされており、本研究は熟練看護師の暗黙知に迫ろうとした意欲的な研究論文であると考えられる。よって、課題はあるものの本論文を博士の学位に値する論文であると判断する。審査員は、論文内容・試問を行った結果から、合格とすることを適当と認める。